

5-3 教員及び職員の情報通信技術活用能力の研修

5-3-1 FDのための情報技術研究講習会

<事業計画>

私立大学教員の ICT 教育技術力の向上を支援するため、大学・短期大学を対象に「FD のための情報技術研究講習会」を学外 FD として実施する。分野に共通して必要となる ICT の活用方法及び教育改善手法の習得、ICT 活用の著作権に対する知識・理解の促進を目的として、教員と学生、学生同士の対話を支援するツール、モバイルによる動画・音声教材の制作、アクティブ・ラーニングの ICT 活用などについて、ワークショップ形式による「FD のための情報技術研究講習会」を実施する。

<事業の実施結果>

「FD 情報技術講習会運営委員会」を継続設置し、「FD のための情報技術研究講習会」を実施した。以下に、委員会及び研究講習会の活動を報告する。

FD 情報技術講習会運営委員会

2020年(令和2年)11月10日、11月18日、12月4日、2021年(令和3年)1月29日に平均8名が出席して4回開催し、開催計画の策定、実施準備を行った。

(1) 開催要項の策定

FD のための情報技術研究講習会は、例年対面方式での演習を中心に開催していたが、コロナ感染症の収束が見えないことと、一部の教員がオンライン授業実施に不安を感じている現状から、オンラインによる1日間での研究講習会を実施することにした。

プログラムは、「全体会」でオンデマンド型・リアルタイム型及び学修評価を含むオンライン授業の進め方、ライブ配信型オンライン授業の進め方、著作権・補償金対応の情報提供を行うこととした。また、「ワークショップ」では、どの分野でも必要となる ICT の活用方法および教育改善手法の習得を目的として、教員が希望するアラカルト方式により、オンライン教材作成、Zoom、PBL、ループリック、データサイエンス・AI 活用教育などの知識理解と活用技術の獲得を目指して、以下のように開催要項を策定した。

2020年度FDのための情報技術研究講習会開催要項

1. 開催日程：令和3年2月25日(木)
2. 会場：Zoom 会議室
3. 対象者：授業改善に情報通信技術の活用を希望される私立大学・短期大学教員
4. 講習会の概要

先生方は、突然のコロナ禍に見舞われ、対面授業にかえてオンライン授業をせざるを得ない体験をされる中、これまでの対面を中心とした授業から、ICT(情報通信技術)を活用した授業の可能性について見つめ直す機会を持たれたのではないかと思います。

コロナ社会は今後も続くことが考えられますので、これからはオンライン授業を如何に効果的に進めるかという問題に対峙せざるを得なくなり、実際にどのように自分の授業の中で展開していけば良いのか、不安や戸惑いを感じる教員も少なくないのではないでしょうか。

そこで、本研究講習会では、どの分野でも必要となる ICT の活用方法および教育改善手法の習得を目的として、オンライン授業の進め方、オンライン授業の教材作成、対話型 PBL、ループリック作成、データサイエンス・AI 活用教育、著作権問題などについて、基礎的な理解を深め、実践できるようにするため「全体会」と「ワークショップ」を設定しました。

【全体会】

- (1) オンライン授業の進め方（オンデマンド型・リアルタイム型など、学修評価方

法を含む)

岩崎 千晶 氏 (関西大学教育推進部准教授)

山田 剛史 氏 (関西大学教育推進部教授)

(2) ライブ配信型オンライン授業の進め方

二瓶 裕之氏 (北海道医療大学薬学部教授、情報センター長)

(3) ICTを活用した著作権処理のポイントと補償金の対応

中村 壽宏 氏 (神奈川大学法学部教授)

【ワークショップ】

ここでは、オンライン教材作成、Zoomを用いた授業の工夫、PBL、ルーブリック、データサイエンス・AI活用教育などについて、知識理解や情報技術の体験を通して各自で実習しながら理解を深めるため、参加される先生それぞれの希望に応じたアラカルト方式で実施します。

(1) ワークショップ1 「ルーブリック入門」

<コース内容>

ルーブリックを初めて作成する方や、うまく活用できていないといったルーブリックの初心者を中心とした対象としています。

最初にルーブリックとは何か、どのような場面で活用できるのか、ルーブリックの作成方法について解説します。その後、受講者ご自身の授業の具体的な課題に対して、評価のためのルーブリックを作成する実習を行い、グループでレビューします。これらの活動を通して、ルーブリックについて理解を深め、上手にルーブリックを作成・活用するヒントを得ることを目的としています。

<コースの流れ>

- ① ルーブリックについての解説
- ② 準備した対象課題をグループ内で紹介
- ③ ルーブリックの作成
- ④ 作成したルーブリックをグループ内で紹介し、意見交換
- ⑤ まとめ

(2) ワークショップ2 「パワーポイントで作るオンライン教材」

<コース内容>

対面授業で使っておられるパワーポイントを動画にしてみませんか。パワーポイントの機能を用いて音声を追加し、動画化してオンライン教材とする方法を紹介します。また、大学等に配信環境がない先生方のために、作成したオンライン教材を学生が視聴できるようにYouTubeを使って配信するための方法も紹介します。

<コースの流れ>

- ① 「スライドショーの記録」機能を使った音声付きパワーポイントファイル作成方法の説明
- ② 音声付きパワーポイントの動画変換方法の説明
- ③ オンライン授業でのパワーポイント動画の使い方と作成のコツを紹介
- ④ パワーポイント動画のYouTubeへのアップロードと配信の仕方を紹介
- ⑤ 教材作成の体験と質疑応答

(3) ワークショップ3 「フォーラム型PBLの進め方」

<コース内容>

インターネット上の電子掲示板やwebサービスを組み合わせ、複数の大学のゼミナールの学生が相互に意見を交換し、またそこに多方面の分野の有識者が様々な示唆を与え、学生が現代社会に存在する問題の発見やその解決を探る能力を磨くためのフォーラム型PBL授業の方法を体験し、考えます。

<コースの流れ>

- ① 電子掲示板やいくつかのwebサービスを活用した教育方法紹介と意見交換
- ② 実際に電子掲示板やwebサービスを利用することにより、フォーラム型のPBLを体験

(4) ワークショップ4 「Zoomを用いた授業の工夫」

<コース内容>

Zoomを遠隔授業で利用するための基本設定(カメラ、ビデオ、待機室)、操作、ブレイクアウトルームを利用したグループディスカッションのマネジメント方法を説明・体験します。また、Zoomと各種ホワイトボード(Google Jamboard、Whiteboard.fi)を組合せたグループディスカッションの方法、各グループのホワイトボードの内容をクラス全体で共有する方法、その他のアプリとの連携などを体験します。

<コースの流れ>

- ① Zoom を用いた授業の紹介
- ② デバイス、表示、ミーティング、画面共有など設定・操作方法の説明と体験
- ③ グループディスカッションの方法と体験（ブレイクアウトルーム、共有ホワイトボード利用など）

(5) ワークショップ 5 「画面操作を録画する教材作成」

<コース内容>

近年、反転授業の事前学修、演習問題の解説、実習等のやり方の説明など、講義ビデオが活用される場面が増えてきました。講義ビデオの作成の一つとして、パソコンの画面を取り込む動画教材作成の方法について紹介し、体験します。

<コースの流れ>

- ① Google Chrome に ScreenCastify をアドオンして、短い動画の作成方法を紹介・体験
- ② Windows Game DVR を使用して、アプリソフトの画面操作を動画にする方法の紹介・体験
- ③ クラウドで利用できる Bandicam を使用して動画を作成する方法の紹介

(6) ワークショップ 6 「データサイエンス・AI 活用授業の実践事例」

<コース内容>

文系・理系を問わず、数理・データサイエンス・AI 関連の知識を持ち、それらを活用して現実社会の課題を解決できる人材育成を目指して実践している2大学の事例を紹介します。意見交換を通じて、社会における課題の発見や問題解決、新しい価値創造ができるデータ科学の教育について理解を深めます。

<コースの流れ>

- ① 関西学院大学のデータサイエンス・AI 活用授業の実践事例紹介と質疑応答、意見交換
- ② 成城大学のデータサイエンス・AI 活用授業の実践事例紹介と質疑応答、意見交換

(2) 実施結果

2021年(令和3年)2月25日に開催し、オンラインの Zoom 会議室を会場に49大学1短期大学から86名の参加があった。以下に、アンケートを踏まえた結果を報告する。

- ① 参加教員全員を対象とする全体会では、「オンライン授業の進め方」、「ライブ配信型授業の進め方」、「著作権のポイントと補償金」について説明を行った。

参加された教員からは、「オンライン授業で学生がストレスを抱えている場合があり、配慮が必要なことが分かった」、「一年間分からないことだらけで行ってきたことを整理できた」、「新学期に向けてあれこれ試してみたい意欲が湧いた」、「オンライン授業を今後どのように発展・深化させるかヒントをもらった」、「著作権の話は毎年更新されるので今後も取入れて欲しい」などの感想が寄せられた。

また、委員からは「参加者全員がオンライン授業の経験者であることから、何らかのテーマを設定してディスカッションする方法も今後の検討として考えられる」との意見があった。

- ② 参加者アンケートによるワークショップの達成度を以下に掲載する。

ワークショップ名	達成できた	見通しがたった	達成できなかった
① ルーブリック	2割	7割	1割(1人)
② パワーポイントのオンライン教材作成	3割	7割	
③ フォーラム型 PBL	2割	7割	1割(1人)
④ Zoom	2割	8割	
⑤ 画面録画の教材作成	2割	6割	2割(2人)
⑥ データサイエンス・AI 活用授業	4割	6割	

- ③ ワークショップごとの特徴的な感想・意見を以下に紹介する。
- ※ ループリックは、「ループリックの理論的な背景から具体的な作成方法が習得できた」、「他の先生のループリックが大変参考になった」、「ループリック専門教員の指摘等が欲しかった」などの感想があり、委員からは、「作成等の時間が十分とれなかったこと」、「オンライン開催のため理解度・満足度が十分把握できなかったこと」が指摘された。
 - ※ パワーポイントのオンライン教材作成は、「パワーポイントで動画を作成・利用しているが、勉強し直せて良かった」、「YouTube への抵抗がなくなった」、「講義動画作成のコツが分かった」、「目標とした画像付きの長い教材作成が分かった」などの感想があった。
 - ※ フォーラム型 PBLは、「教員がファシリテータに徹する授業の進め方を講義科目に適応できないか検討したい」、「教員個人のネットワークがないと難しそうに感じたが構築方法は参考になった」、「ポイントを議論するなど意見交換の中からアイデアが生まれるような研修運営にしても良かった」、「ツール等の体験も有益だった」などの感想があった。
 - ※ Zoomは、「早速 4 月から取り入れたいことがたくさんあった」、「良く分からなくて使えなかった操作が理解できて良かった」、「グループ活動の方法が学生目線で体験できて勉強になった」、「細かい勘どころのヒントをたくさんもらった」などの感想があり、委員からは、「参加者の多くは既に Zoom を利用しており、基礎的な部分の説明は省略しても良かった」との指摘があった。
 - ※ 画面録画の教材作成は、「PC 画面全体の録画ができることが分かり、様々な動画作成に活用できると思った」、「オンライン授業でどのように教材を活用・工夫するのか知りたかった」、「Mac ユーザには他のツールがあるので物足りない」などの感想があった。
 - ※ データサイエンス・AI 活用授業は、「私立大学文系の広範な取組みを教えてもらい良かった」、「データサイエンス・AI 活用人材の養成が重要であることが理解できた」、「文系の学生に如何に興味を持たせ学ばせるかの工夫が参考になった」、「タイムリーな内容で今後の AI 活用授業の検討に役立つと思う」などの感想があった。

5-3-2 大学職員情報化研究講習会

<事業計画>

私立大学職員の ICT 活用能力の開発・強化を支援するため、大学・短期大学を対象に「大学職員情報化研究講習会」を7月頃に基礎講習コース、12月頃に ICT 活用コースを実施する。教育の質的転換を目指した企画・提案及び学修成果を可視化する ICT の活用、IR システムの整備と活用、全学的教学マネジメントの確立に向けた指針の実施に必要な ICT 戦略、業務改革に求められる ICT 活用などについて、知識・理解の獲得と実践的な考察力の促進を支援する。

<事業の実施結果>

「大学職員情報化研究講習会運営委員会」を継続設置し、「大学職員情報化研究講習会」を10月に基礎講習コース、12月に ICT 活用コースをオンラインで開催した。以下に、委員会及び研究講習会の活動を報告する。

大学職員情報化研修講習会運営委員会

2020年(令和2年)4月16日、6月10日、7月9日、11月9日に平均9名が出席して4回開催し、開催の可否・方法、開催要項の策定、実施準備、開催結果の振り返りを行った。

(1) 基礎講習コースの開催要項の策定

新型コロナウイルス感染の拡大が収束していないことから、7月に実施を計画していた浜名湖の集合型研修をとり止め、改めて10月にネット方式により、以下のようなプログラムで事前研修、全体会、グループ討議により実施することにした。

- ①「事前研修」では、グループ討議メンバーで事前に意識合わせを行うため、自己紹介シートを相互に共有するとともに、事前研修サイトで文科省等の方針や用語集などの情報提供と Zoom の接続練習を行うことにした。
- ②「全体会」では、イノベーションに向けた職員の役割を確認するため、「テレワークによる働き方改革・勤務制度」、「授業のオンライン化による教育改革」、「データ分析・可視化」、「情報セキュリティ対策」の情報提供を行った。その上で、それらを実現するための情報通信技術(ICT)利活用の意義を「教育改革」、「学生支援改革」、「業務改革」の観点から、関連付けを行うことにした。
- ③「グループ討議」では、Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用して、本研修の課題として設定した上記の3つの観点について、自らがどのように関与すべきか、ICT を利活用した望ましい構想案を作り、発表・相互評価を行うこととして、以下のように開催要項を策定した。

2020年度大学職員情報化研究講習会 基礎講習コース開催要項

1. 開催日程：令和2年10月7日(水)～8日(木)
2. 会場：Zoom 会議室
3. 対象者：私立大学・短期大学に所属する職員
4. 開催趣旨

本協会では私立大学における職員の職務能力の開発・強化を支援するため、教育の質的転換を目指した企画・提案及び学修成果を可視化する ICT の利活用、全学的教学マネジメントの確立に向けた指針の実施に必要な ICT の利活用、業務改革に求められる ICT の利活用などについて、知識・理解の獲得と実践的な考察力の促進を支援することを目的に研究講習を実施しています。

本コースは、参加者が、ICT 利活用の可能性や工夫について基礎的な理解を深め、大学の管理運営や教育活動の充実に向けて主体的に取り組む考察力の獲得を目指します。

5. 本コースのねらい

開催趣旨に基づき、参加者が次のような成果を修得することを目指します。

- ① ICT の利活用が大学の管理運営、教育活動の充実に果たしている役割を認識する。
- ② 問題発見・解決プロセスの体験を通じて、自己の業務の改善や職場における課題解決に ICT の利活用を考察し、アクションプランを提案できるようにする。

6. プログラム概要

【事前研修】

グループ討議に向けて、グループ内での事前意識合わせを行うため、自己紹介シートを交換いただきます。9月30日ごろに同じグループメンバーのメールアドレスを連絡します。また、本協会 Web に事前研修ページを設定しますので、文科省等の方針(答申)及び用語集などを事前に確認してください。今回は Zoom を利用しますので、練習を兼ねて接続テスト用に開催数日前の2日間程度、会議室を開放します。

【本研修】

全体会では、イノベーションに向けた職員の役割を認識した上で、①教育改革、②学生支援改革、③業務改革について、それらを実現するための情報通信技術 (ICT) 利活用の意義について情報を共有し、課題認識を深めます。

グループ討議では、本研修の課題として設定した①から③の観点から、自らがどのように関与すべきか、ICT を道具として利活用した望ましい改善案の提言作りを行い、グループ発表・相互評価を通じて、主体的な考察力、イノベーションに取り組む姿勢の獲得を目指します。

第1部 全体会 (情報提供)

(1) 開会挨拶

笠原 博徳 氏 (早稲田大学副総長、運営委員会担当理事)

(2) インTRODクシヨン 「大学改革に向けた職員の役割」

木村 増夫 氏 (上智学院理事長補佐、運営委員会委員長)

職員として認識しておくべき社会の変化と大学教育の役割、大学改革へ主体的に取り組む心構えについて理解の共有を図ります。

(3) 情報提供

① 「テレワークができる環境を構築した働き方改革」

原田 章 氏 (追手門学院大学学長補佐、経営学部教授)

ここでは、大学業務のテレワーク(在宅勤務)の可能性について、追手門学院大学が実践している働き方改革の取り組みとして、電子決済や資料の電子化などにより、大学以外でも仕事ができる環境を構築している状況・課題などを紹介します。

② 「テレワーク実践に向けた在宅勤務制度の構築と課題」

須田 誠一 氏 (上智学院人事局長)

ここでは、テレワークを稼働させるルール作りとして、在宅勤務制度を導入することの可能性を整理し、長時間労働の是正、業務の効率化を通じて、業務の質向上と新たな付加価値の創造に向けた課題などを紹介します。

③ 「授業のオンライン化による教育改革と課題」

山本 敏幸 氏 (関西大学教育推進部教育開発支援センター教授)

ここでは、授業のオンライン化に向けた取り組みの状況を整理し、教員と職員が協働して担う役割と責任を明確にする中で、職員が主体的に克服すべき課題を把握し、解決策に向けた批判的考察力の重要性を紹介します。

④ 「意思決定を支援するデータ分析・可視化とレポーティング」

山本 幸一 氏 (明治大学教学企画部教学企画事務室)

ここでは、大学改革・教育改革に向けた支援のスキルとして、データからストーリーを作り、意味のある情報として意思決定に活用できるよう、可視化技術を取り入れた分析手法獲得の重要性について紹介します。

⑤ 「サイバー攻撃のリスクとセキュリティ対策の基礎知識」

松坂 志 氏 (情報処理推進機構標的型攻撃対策グループリーダー)

ここでは、大学の教育・研究現場でも入試・成績情報、個人情報、その他機密情報がネットワーク経由で窃取されるなどの事例が頻発化してきており、構成員全員がサイバー攻撃の脅威を理解し、防御行動を意識して実践できるよう、セキュリティ対策の基礎知識のポイントを紹介します。

第2部 グループ討議

(1) 情報提供の振り返り

情報提供で特に重要と思った内容についてホワイトボードに記入し、ICT を活用する意義・重要性についてグループ内で共有します。

(2) グループ討議の進め方

教育改革、学生支援改革、業務改革の3つの観点から、社会の変化に対応した大学教育・大学運営の在り方について、課題の洗い出し、解決策の構想、構想の実現可能性の考察プロセスを体験し、中間まとめを Web に掲載して掲示板で意見をうかがいます。

第3部 全体会（発表・相互評価）

掲示板の意見を踏まえて、振り返りを行い解決策の構想をとりまとめ、オンラインで発表し、意見交換を行います。

(2) 基礎講習コースの実施結果

31 大学から 54 名の参加があった。以下に、実施結果の概要を報告する。

① グループ討議の構想案について

5 グループによる構想案の検討は、「教育改革」1 件、「学生支援改革」1 件、「業務改革」3 件で、以下のようなテーマで構想案を作成し、発表及びグループ間の意見交流を通じて、参加者全員で ICT を活用したデジタル改革の可能性を共有した。

テーマ：「みんなで楽しくテレワーク」

「社会の変化に対応した大学運営のデジタル化プロジェクト」

「オンライン教育における教員の ICT スキル向上」

「オンラインでもあったかサポート！～申請編～」

「より良い労働環境にするための業務改革」

② 参加者アンケートから、主に以下のような感想・意見が寄せられた。

- ・ 学生サービスとして、電子ワークフローの仕組みを申請業務に落とし込みたい。
- ・ 学生満足度向上のため、教職員の ICT 活用力の格差をなくし、オンライン授業の質を上げる手段として、他大学連携や大学院生を巻き込んだ交流など、職員がコンソーシアムをネット上につくり運営していく取組を考えたい。
- ・ オンライン面接試験に向けて、試験環境の強化や運用マニュアルの作成を通じて、問題解決や ICT を活用した工夫を図りたい。
- ・ テレワークを育児や介護など、働きやすくなる手段としてとりいれたい。
- ・ 集合研修と違い、隣とのちょっとした相談・会話や、他グループとの交流ができなかった。
- ・ オンラインは特有の間・場の空気を感じることができないなど違和感があったが、メンバーの思いやりや温かみを感じる場面もあり、討議を通じて創り上げた達成感があった。

③ 運営委員から、主に以下のような感想・意見があった。

- ・ 大半が Zoom の扱いに慣れており、マイクの切替、ホワイトボード、チャットなど機能を十分に活かし、スムーズな受講をしていた。
- ・ 対面ではできた雑談を含む交流やテーマに関連した話題の促進が困難であり、議論が自大学の事例紹介に留まるなど、ICT を活用した改革提案まで議論が広がらなかった。
- ・ ネット上で委員が自大学から助言することについて、遠隔でも心配なく対応ができた。

なお、開催結果の詳細は、巻末の 2020 年度事業報告の附属明細書【2-7】を参照されたい。

(3) ICT 活用コース開催要項の策定

プログラムは、「コロナ禍のオンライン学生支援を考える」をテーマに、ICT を活用して学生の「学修不安」、「生活不安」、「就活不安」などの難題にチャレンジするため、オンラインを駆使した取組みを通じて、デジタル変革へ理解の深化を図ることを目指して、以下のように開催要項を策定した。

2020年度大学職員情報化研究講習会
ICT活用コース開催要項

1. 開催日程：令和2年12月22日（火）
2. 会場：Zoom 会議室
3. 対象者：私立大学・短期大学に所属する職員及び教員
4. 開催趣旨：「コロナ禍のオンライン学生支援を考える」
コロナの収束が見えない中で、全国の大学では対面授業とオンライン授業を組合せて教育の質の向上に向け、教職協働してデジタル変革に挑んでいる。その中で、学生の「学修不安」、「生活不安」、「就活不安」などの問題が生じてきている。また、大学の経営面では、来春の受験生確保が喫緊の課題となっている。
そこで、本研究講習会では、ICTを活用してこれらの難題にチャレンジするために、オンラインを駆使して学生ひとり一人に相談・助言などの学生支援と受験生の大学選択支援を可能にする取組みを通じて、デジタル変革への準備について理解の深化を図ります。
5. プログラム概要
 - ① 開会挨拶
木村 増夫 氏（上智学院理事長補佐、運営委員会委員長）
 - ② 基調講演：コロナ禍におけるオンライン学生支援の取組みと課題
柳澤 広美 氏（上智大学学生局長）
 - ③ 情報提供：オープンキャンパス～オンライン授業体験 環境構築と実施事例
出原 立子 氏（金沢工業大学情報フロンティア学部長）
 - ④ 情報提供：留学支援(国際教育の提供)～オンラインによる海外連携型協働学習
池田 佳子 氏（関西大学国際部教授グローバル教育イノベーション推進機構副機構長）
 - ⑤ 情報提供：キャリアカウンセリング～チャットボットによる就職支援
大槻 奈巳 氏（聖心女子大学人間関係学科教授、キャリアセンター長）
 - ⑥ 情報提供：オンライン入試～テレビ会議方式による面接試験
高原 幸治 氏（桜美林大学入学部長）
 - ⑦ 情報提供：オンライン授業～学生質問への自動回答
大谷 雅之 氏（近畿大学理工学部情報学科）
 - ⑧ 情報提供：新入生支援～上級生・職員が参加したオンライン交流サイト
川畑 一成 氏（関西大学理事長付局長、教育後援会幹事長）

(4) ICT活用コースの実施結果

44大学1賛助会員から86名の参加があった。

以下に、基調講演と情報提供の概要とアンケートによる実施結果を報告する。

1. 基調講演と情報提供の概要
 - ① 上智大学では、「コロナ禍におけるオンライン学生支援の取組みと課題」として、コロナ禍で孤立・不安感を持つ学生が多くみられたことから、正課外活動(学内交流会・ランチ会など)のオンラインイベント企画、キャリア支援(面接・ガイダンスなど)のオンライン対応、メンタルケア(電話・Zoom)のオンライン面接を行うなどの学生支援を実施した。なお、課題としては、障害を持つ学生、深刻な問題を抱えた学生、入国できない海外の学生にオンラインでは手を差しのべることの限界を感じている。
 - ② 金沢工業大学では、「オープンキャンパス～オンライン授業体験、環境構築と実施事例」として、オープンキャンパス・キャンパスツアーをオンラインで実施した。相談会・説明会及び学科紹介・授業体験をYouTubeライブとZoomを併用して行うとともに、VRによるキャンパス体験で高校生がライブの感覚で参加する取組みが紹介された。
 - ③ 関西大学では、「国際教育の提供～オンラインによる海外連携型協働学習」として、地球的視野で主体的に行動できる態度・能力の基礎を養成する学習モデル(COIL)の取組みが紹介された。多国籍・異文化の学生がプラットフォーム上でグループ活動として、各国の事情・文化を紹介し合い、テーマについて英語での意思疎通・説得を通じた協働作業を進めることで、企画構成力、批判的思考・分析力、チームワーク、メディア制作力などの育成を図っている。

- ④ 聖心女子大学では、「キャリアカウンセリング～チャットボットによる就職支援」として、昨年までは 15 名のカウンセラーが年間 3,000 件のキャリアカウンセリングを行っていたが、対面でのサポートが困難となり、自動応答チャットボットを活用した取組みが紹介された。24 時間オンラインでの自動対応により、よくある相談内容の対応が迅速化するとともに、個別の相談内容についてはネットで対応することで学生の満足度を高めることができた。
- ⑤ 桜美林大学では、「オンライン入試～テレビ会議方式による面接試験」として、面接する受験生の規模からオンライン(Zoom)で対応することにした。オンライン面接の仕組みは、受験生が「Zoom 待合室」で待機し、面接時間になったら「面接誘導システム」により、面接室へ仮想的に入室させることで円滑な面接試験が実現できた。
- ⑥ 近畿大学の 大谷氏から「オンライン授業～学生質問への自動回答」として、システム構築実習科目(100 名)では、最初にビデオ教材で基礎知識を修得させ、実習の質問はバーチャル TA 経由で対話型 AI に回答させている。高度な質問への回答は個別対応する必要があるが、教員・TA の負荷低減に役立っている。
- ⑦ 関西大学では、「新入生支援～上級生・職員が参加したオンライン交流サイト」として、全国の父母・保護者から「友達も作れず子供の様子が気になる」との不安な声が寄せられ、友達づくりを支援する交流サイトを構築し、電子掲示板を介して、上級学年生と職員が相談役になりアドバイスする交流支援を行った。

2. アンケートの主な感想・意見

- ・ 他大学のオンラインによる運用状況を知る機会がほとんど無かったため、とても参考になった。
- ・ 海外連携型協働学習について本学のカリキュラム改革に活かせる可能性があり検討を開始した。
- ・ オンラインで場所の制約がなくなり可能性が広がる一方で、学生が日々顔を合わせて話す空間がなくなったことを何とかしなくてはと思った。
- ・ どの大学もこの事態に悲観することなく、前向きにチャンスと捉えている印象を持った。
- ・ 在校生支援・学生募集の両面で対面とオンライン併用での発展の可能性を感じた。
- ・ 本学でチャットボットの導入を検討しており、全力で ICT に取り組んでいる大学に追いつきたい。
- ・ オープンキャンパスは入試広報と学生の学びが連携されており、大学ならではの広報と共感した。